

アバターロボットを活用し、障がい者をはじめ希望する全ての人が就労可能な地域社会の実現へ

採択事業者名 えひめロボティクス障がい者サポートコンソーシアム
 コンソーシアム構成員 株式会社ノトス/株式会社オリイ研究所/国立大学法人愛媛大学教育学部苅田研究室/愛媛県障がい者ICTサポートセンター

事業概要

目的

急速に進化を遂げているロボティクス技術を活用し、肢体不自由者をはじめとした障がい者の就労支援につなげるとともに、ロボット活用や障がい者雇用を通じて事業者のCSR向上や人材不足解消につなげる。障がい者、雇用主、サービス提供事業者による「幸せの好循環」を創出し、持続可能な地域社会の構築を目指す。

課題

全国の特別支援学校卒業生のうち就職者は32.0%、さらに肢体不自由者の就職率は6.2%にとどまる(令和2年文部科学省、学校基本統計より)。一方で、事故等により後天的に障がいを持つ方も多く、県内の障がい者のうち44.1%が肢体不自由者である(平成30年、愛媛県障がい者ニーズ調査をもとに弊社編集)。肢体不自由者の就労支援が求められている。



解決策

2020年はアバターロボット元年とされ、自立支援ロボット市場が急拡大している。そのなかでも、グッドデザイン賞2021を受賞した分身ロボットOriHimeに着目。株式会社オリイ研究所は分身ロボットカフェ DAWN ver.βも運営しており、その育成・接客ノウハウを活用。県内の特別支援学校や就業支援施設と連携し、OriHimeパイロットの育成につなげる。



取り組み内容

- 遠隔就労体験プログラムの実施とパイロット育成
計6名のパイロットを育成
- 今治里山サロンOriHimeカフェの開催
育成パイロットがOriHimeを操作しお客様を接客
- 成果報告会の開催
OriHimeによる受付業務と県内ネットワーキングへ
- 障がい者支援ロボット就労可能性レポート作成
- デモデイ受付業務



@OriLab Inc.

検証項目

OriHimeを確実に操作できるパイロットを育成
 研修プログラム修了者と分身ロボットカフェ「DAWN ver.β」でも就労可能な上級スキル習得者を育成
肢体不自由者の就労意欲向上
 研修を通じて育成パイロットの就労意欲と就労への不安がどの程度解消されたか検証
飲食・小売店業界における実績構築
 連携先である里山サロンの売上拡大と来店客の満足度を検証
地域におけるアバターロボットの認知拡大とネットワーキング
 マスメディアへの露出と成果報告会への出席社・人数を検証

取得データ

育成パイロット(参加動機、研修満足度、研修疲労度、就労意欲、接客就労希望等)、育成パイロット関係者(研修満足度、再度参加希望等)、里山サロン来店客(参加動機、接客満足度、再度参加希望、飲食以外のOriHime活用可能性等)

データ活用による考察・示唆

全ての育成パイロットが就労および接客業への就労意欲が向上し、同様な研修の機会があれば参加したいと回答した。また、里山サロンでは売上拡大と新規来店客の獲得につながり、来店客の9割以上が「楽しかった」「また参加したい」と回答した。

成果と今後

成果(含む想定)

OriHimeをはじめとしたアバターロボットが障がい者の就労意欲と接客業における来店客の満足度向上につながることを実証。今後は多様な業界での活用にトライし職業選択の幅を広げる。また、愛媛モデルの育成・運用スキームを確立し持続可能な就労支援へつなげる。

		実装前	実装後(～今年度)	今後3年
金額	金額	➢ -	➢ 売上・雇用創出・広告換算 266万円	➢ 売上・雇用創出・広告換算 1.34億円
	重要指標	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 全国の特別支援学校における肢体不自由者の就職率は6.2% ➢ 県内の障がい者のうち44.1%が肢体不自由者 ⇒障がい者の多くを占める肢体不自由者の就労支援が求められる ➢ 県内においてOriHimeを活用した本格的なサービスの事例は無し ➢ 育成パイロットの6名のうち2名は接客業への就労希望が低かった 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 今治・里山サロンOriHimeカフェを3日間実施 定員72名に対し66名来場 77%が新規顧客 平日対比で売上拡大 来場者の満足度92% ➢ 地元TVで4回放送(計1,084秒) ➢ 研修前と比較し、育成パイロット全員が「就労意欲が高まった」と回答 ➢ 特別支援学校の先生など関係者全員が「他の学生や関係者に研修の受講をおすすめする」と回答 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ アバターロボットの導入・常時運用 2025年度3事業者 →2026年度10事業者 ➢ アバターロボットのトライアル運用 2024年度3事業者 →2025年度3事業者 ➢ 障がい者の常時雇用 2025年度3名 →2026年度10名
定性面	定性面	➢ 実装先である里山サロンはセルフサービスであり、 スタッフがお客様と接する時間が短い	<ul style="list-style-type: none"> ➢ OriHimeが長くお客様と接することで顧客ロイヤリティの向上につながった ➢ 里山サロンのコンセプト醸成(来るだけで誰か、何かのために優しい場所)につながった ➢ 福祉関係者へのリーチにつながった 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 愛媛県内でのパイロット育成・運用スキームの確立 ➢ 行政・金融・観光施設・高齢者施設等、多様な面での活用を実証

次年度以降の実装計画/見立て

- **障がい者の職業選択の幅の拡大とアバターロボットの導入促進**
行政・金融・観光施設・高齢者施設等での実装を行い、接客だけでなく案内や会話相手など、様々なシーンでの活用を実証し、障がい者の職業選択の幅を広げる。
- **運用コストの軽減**
障がい者支援団体やNPO等と連携し、**愛媛県内でのパイロット育成・運用スキームを確立しコストの軽減に努める。**
- **パイロット潜在層の拡大とリーチ**
普通学校に通う肢体不自由者へのリーチや在宅勤務の健常者の利用も図り、事業者へのロボット導入促進につなげる。